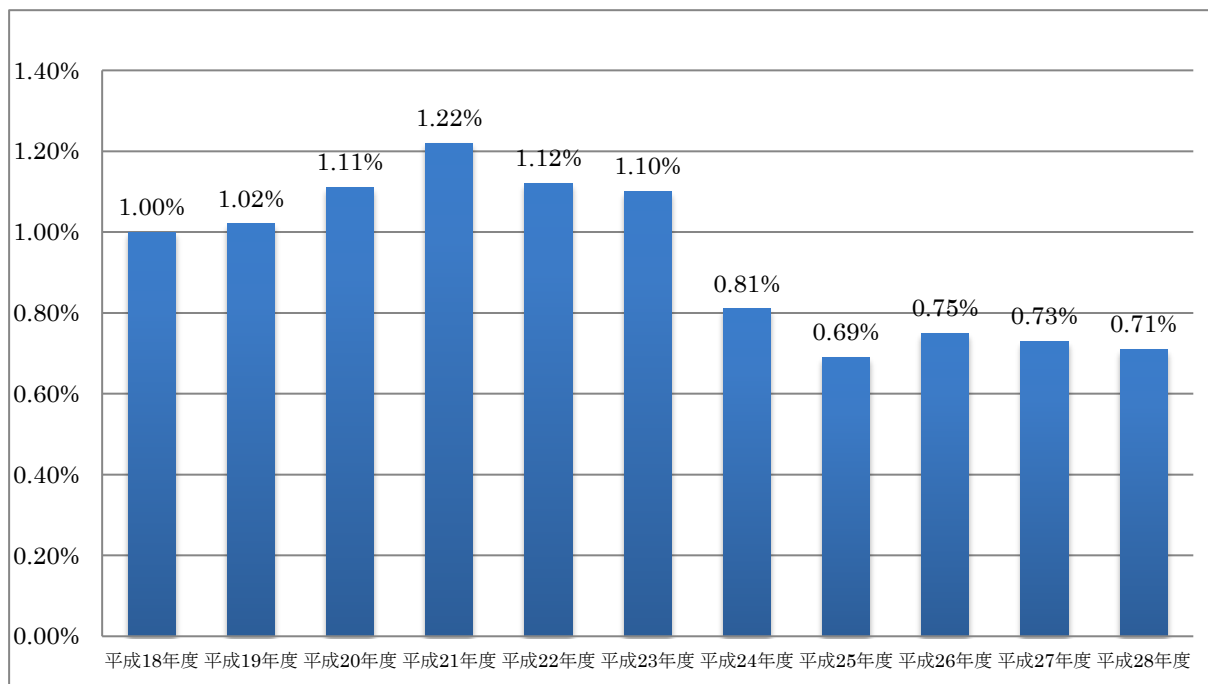


7. 褥瘡発生率



褥瘡は患者の QOL の低下を招き、在院日数の長期化や医療費の増大にもつながるため褥瘡対策は医療・看護・ケアの重要な評価の指標の一つである。

褥瘡対策実務委員会（以下、実務委員会）により、積極的な予防策、早期の治療・ケアが行われ、重症化する患者は減少している。また、褥瘡発生危険性が高い患者に対して、皮膚・排泄ケア認定看護師が積極的に関わり各病棟の知識・意識・技術の向上に貢献した。しかし平成 21 年度を境に褥瘡発生率は減少してきたが、褥瘡発生率は 1% を下回ることができなかった。更なる発生率の低下に向けて実務委員会で検討し、褥瘡保有患者が多い病棟の集中的な回診、体圧分散マットレス供給率を基に高機能エアーマットレスの増設、病棟のニーズに合わせて実践に役立つ内容を取り入れた勉強会を開催した。その結果、平成 24 年度以降の褥瘡発生率は 1% を下回ることができ、現在も維持できている（平成 24 年度全国平均 1.16% 日本褥瘡学会 HP より）。これは実務委員会の活動の成果とともに、看護師の褥瘡対策における質の向上によるものと考えられる。現在は褥瘡発生率の更なる低下を目指し褥瘡発生の多い部署の現状分析をして、病棟スタッフと共に褥瘡カンファレンスを開催し情報共有、知識、技術の向上に取り組んでいる。また、勉強会の開催を年 7 回から 9 回に増やしより内容を充実させ、勉強会の中で褥瘡発生事例の検討会を行うなど全病棟で共有をしている。

今後も褥瘡発生率の維持、低下を目指し積極的な褥瘡対策に取り組んでいきたい。

データ提供 看護部